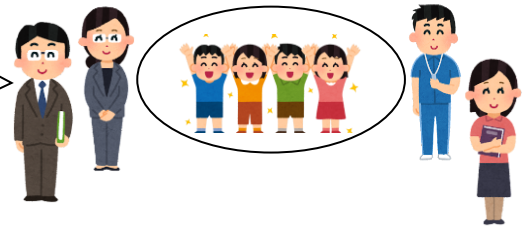
# 令和６年度　穴生小学校学校経営方針

北九州市立穴生小学校　校長　山﨑　良恵

**子どもたちをど真ん中に据えて、**
それぞれの得意技を生かして、全職員で知恵を出し合い
みんなで力を合わせて、いい仕事をしていきましょう。



## １　学校教育目標

心身ともに健康で、温かい思いやりの心をもち、自ら学び自ら考える児童の育成

## ２　目指す児童像

○　はげむ子（徳）　　豊かな心をもち、友だちのよさを認め、ともにはげむ子ども
○　のびる子（体）　　ともに体をきたえ、たくましくのびようとする子ども
○　すすむ子（知）　　すすんで学習し、よりよい自己を求めてやまない子ども

**☆合言葉は、「いい　あのお」**

「いい」⇒**い**ちばんに、**い**のちを大切にする。
「あ」　⇒**あ**いさつができ、最後まで**あ**きらめない。
「の」　⇒**の**びていく。　「お」　⇒**お**もいやりの心をもって。

## ３　目指す学校像　　子どもの力が伸びる学校

―学校が好き　先生が好き　友だちが好き　穴生の町が好き　そして　自分が好き―

○　子どもにとって『行きたい学校』　　○　保護者にとって　『行かせたい学校』
○　教師にとって　『働きたい学校』　　○　地域住民にとって『行ってみたい学校』

## ４　目指す教師像

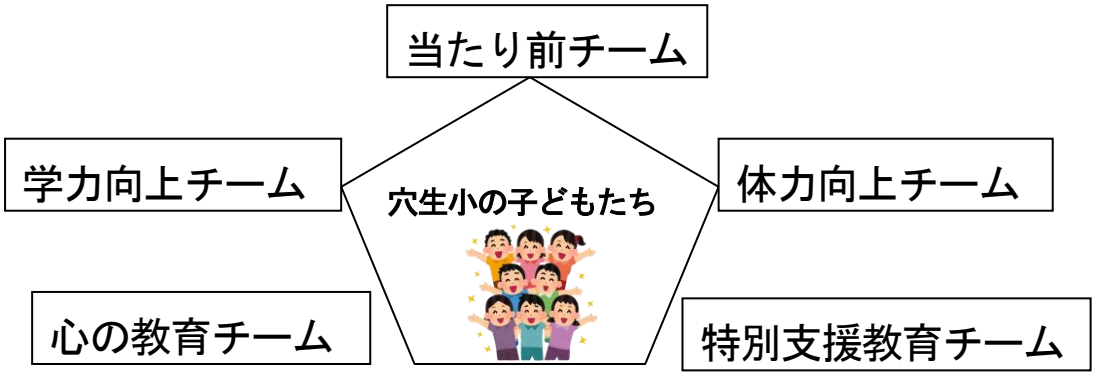
○　子どもに深い教育的**愛情**をもち、教育に熱い**情熱**をもつ教師
○　子どもの力を伸ばすために、日々の授業を大切にする教師
○　**子どもに寄り添い、**明るく接し、温かい言葉をかける教師
○　子どもの一人一人の**よさや可能性を見つけ**、引き出し、育てる教師
○　子どもとよく遊び、共に汗を流す教師

## ５　穴生プロジェクトチーム　※ボトムアップで、みんなでスクールプランをつくり、推進する。

○　「穴生プロジェクトチーム」の５つのチームの取組の充実と推進及び相互の連携を図る。
○　穴生小の子どもたちのよさや特質、そして課題を考えて、取り組んでいく。

**☆合言葉は、「いい　あのお」☆**

「いい」⇒**い**ちばんに、**い**のちを大切にする。
「あ」　⇒**あ**いさつができ、最後まで**あ**きらめない。
「の」　⇒**の**びていく。　「お」　⇒**お**もいやりの心をもって。



○　**当たり前のことが、当たり前にできるように**（本校の子どもたちの未来のために）

～「大人になっても、当たり前のことが当たり前にできる子どもを育てよう。」～

※＜穴生中学校区スタンダード～「あたりまえのことがあたりまえにできる」児童生徒の育成～＞

☆**「当たり前チーム」**（児童の企画委員会等との連携）　※穴生小の課題解決に向けて

◎　“共通の指導”の徹底（全職員が同じ考えの下で）。

◎　「望ましい姿」が、当たり前だという雰囲気、空気をつくる。

◎　「望ましい姿」（未来のために）に向けて、日常的な指導と月ごとの重点的な指導を行う。

※教師は、「１週間の目標」を決め、教師の姿を通して子どもたちに伝えている。

**＜昨年度の月目標＞**

・新しいクラスであいさつをして仲のよい友達を増やそう。・背中を伸ばして、勉強しよう。
・「いいあのお」を守って生活しよう。
・自分の意見をしっかり伝えよう。・運動会に向けて、よりよい練習をしよう。
・言葉づかいに気を付けて生活しよう。・授業の準備をしっかりしよう・
・真剣に学習に取り組もう。・鬼を追い出す勢いで勉強を頑張ろう。
・学級最後の思い出をたくさんつくろう。

**＜教師の１週間の目標＞**

月：早めに教室に行き、子どもを待とう。
　　子どもは、どんな様子で登校しているかな？
火：あいさつは、まず教師から。
　　朝は気持ちのよい元気な一言ではじめよう。
水：小さなルールを守れる者は、大きなルールも守れる。
　　小さなルールを守れない者は、大きなルールも守れない。
木：言葉は、人なり。
　　教師は、子どもの言葉の環境であることを意識しよう。
金：整理整頓、気持ちもすっきり。仕事時間の業務改善。

◎　穴生小の子どもの**課題と継続指導**

１　基本的生活習慣の確立。（８：２０までの登校）
　◎**「早寝、早起き、朝ご飯」**
２　学習意欲の継続。
３　学習の基礎・基本の定着。

⇩

・とにかく４月が鍵！まず登校時間の徹底！しつこく徹底！
・職員の「当たり前チーム」と児童の「企画委員会」の連携、全職員で。

◎　「１秒キラリ」
・（例）チャイム席を守る。机の上を片付ける。くつをそろえる。など

◎　「あいさつレベル表（あいさつ７）」⇒　あいさつレンジャー
・白レンジャーを目指す。＜名前を呼んで目を見てあいさつができる。＞

## ６　本年度の重点目標

### （１）２学期制の継続における業務改善

○　学校における業務改善の目的

◎子どもと向き合う時間の確保やそれに伴う指導準備時間の確保

◎教職員のワーク・ライフ・バランスの充実

・２学期制により、創出された時間を有効に活用し、在校時間を削減していきましょう。

・月平均在校時間を**４５時間以内に。**

・年休取得日数を**１２日以上に。**

⇒「学校における業務改善プログラム」の目標値

○　心のアンケート・教育相談の充実―年間４回

・一人一人の子どもと向き合い、心に寄り添っていきましょう。

・いじめや悩みを早期に発見し、早期に解決していきましょう。

○　学びチャレンジ週間（補充・発展学習）の実施―年間２回

・基礎基本を確実に定着させていきましょう。

・子どもの学びたい、伸びたいという気持ちを引き出し、それに応えていきましょう。

### （２）ＩＣＴの活用

○「すべての子どもが、学校で、GIGA端末を毎日使っている！」と実感できるように。

○「いつも身近にGIGA端末！」・鉛筆や消しゴムのような文房具の仲間、いつも身近に

“合言葉”は、

**Ｉ・・・いつでも活用！**
**Ｃ・・・ちょっとでも活用！**
**Ｔ・・・ためらうことなく活用！**

### （３）専科指導と持ち合い授業の推進

○　学級・学年の枠を超えた、<u>チームで児童を育てる</u>体制づくり

・持ち合う教科を増やすことにより、教材研究を行う教科数の軽減が図られる。

・それぞれの教員による、多面的に児童理解が図られる。

### （４）一人一人に寄り添う教育の推進

**①　特別支援教育、特別な支援を要する児童の指導、行き渋り、不登校傾向の児童の指導**

○　**<u>ケース会議⇒拡大ケース会議（保護者同席）</u>**の設定。

○　適切な個別の指導計画や個別の教育支援計画等の作成及び情報共有。

○　関係機関につなぐ手順の明確化（ケース会議の場で審議）。

⇒**特別支援コーディネーター（特別支援学級担任）**、学級担任、教務主任、管理職、養護教諭

○　保護者との連携、学校での様子の参観。

○　スクールカウンセラー、特別支援教室担当（通級による指導）との連携。

**<u>☆　ステップアップルーム</u>での対応　安心できる居場所づくり**

・担任、養護教諭、その他子どもと関わる職員等が連携。情報共有しながら関わる。

・子どもが安心して学校生活をおくることができる居場所づくりを行う。

**<u>☆「あおぞら学級プライド」</u>**

**・“一人一人に合った環境と手だてで、**
**分かった、できたを積み重ね、どんどん伸びるあおぞら学級”**

② 生徒指導

○ いじめ問題は、**「どの児童でも、どの学校にも起こりうるもの」。**
全教職員が「弱い者をいじめることは、人間として絶対に許さない」という共通理解に立ち、**児童の発するサインを見逃さないようにする。**

○「心のアンケート」「教育相談」等の確実な実施と日頃からの児童の行動観察を通して、いじめ等の早期発見・解消に組織的に取り組む。

○ 事案が起こったら、まずじっくり聞く。

＜生徒指導の三機能＞

1．自己決定の場を与える。 2．自己存在感を与える。 3．共感的な人間関係を育成する。
（「これから、どうしていきたいのか？」自分の言葉で言わせる。）

○ **「穴生小スタンダード」**（穴生小の生活のきまり）の徹底。

○ **対人スキルアップ 友達と仲よくなれる “魔法の技”⇒相手の気持ちになって考える。**

③ 人権教育

○ 公教育の立場で全教育活動を通して**「差別を見抜き、差別を許さず、差別をなくす」**実践に努める。

○ 時代の変化にも対応できる**鋭い人権感覚を磨く。** ※LGBTQなど
※「人権教育ハンドブック」 「私たちと同和問題」の積極的な活用を図る。

④ 健康教育

○ 学校事故・交通事故などの防止に努め、事故発生時の処理は迅速かつ誠意をもって当たる。（学校危機管理マニュアルの確認）

○ 学校給食の指導の充実に努めるとともに、養護教諭や管理職等と連携して食育の推進に当たる。**特に、食物アレルギー対応給食事故（誤食の防止）や窒息事故の防止に努める。**
※ 除去食等児童の確実な把握を行い、補欠の職員が入る場合には、確実に連絡を行う。
※ **毎月の「食物アレルギー対応給食検討委員会」の確実な実施。**

○ 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等の感染症の対応 ※気を緩めずに！
・換気、手洗い・消毒の励行、マスクの着脱（マスクの着用を求めないことを基本に）

（5）道徳教育の推進 ☆ **本校の研究テーマ５年次**（別途提案）
（穴生小の子どもたちの“心の耕し”の推進） **※心の温度を１度でも２度でも上げたい。**

○ 道徳科の週１時間の授業を**地道に、確実に**
・学級経営の基盤となる時間を積み重ねる。
・子どもの発言をしっかりと受け止め、教師の問い返しなどで、紡いでいく授業をしていく。
・**“子どもも、教師も変われる時間である”**ことを意識する。
・学級目標を、学級や子どものよさを引き出す鏡として大切にする。
※絵に描いた餅ではなく**“本気の学級目標”**の設定、学級目標と道徳科との関連を図る。

○ 学校教育全体で行う道徳教育の意識を。
・様々な体験を“豊かな体験”に
（例えば）算数科の授業をしていても、道徳教育の視点が必ずあることの意識をもつ。

【道徳科の授業で大切にしたいこと】 プロジェクトＤ５
①週一時間の道徳科の授業を**地道に**やっていく。 ※徐々に、確実に、**つむいでいく**。
②**“待つ”心構え**と**“受け止める”心構え**をいつも大切にしていく。
③「道徳科の教材は、教師が子どもに贈る**“心のプレゼント”**」である。
④子どもの**“よさ”を**見抜いていく。
“大切なことは、心の目で見ないと見えない。”（星の王子さま）
⑤道徳科の時間以外でも、**日頃から、**“いい話”“心が温まる話”をする時間をつくる。
※子どもと教師の心が通じ合う瞬間の積み重ね。教師の体験談、失敗談、願い、思い
読んだ本のこと、新聞記事、テレビで見たことなど